月刊関複

2020 November
No.68
11

津軽の眺望（写真提供：早坂 淳氏　株式会社ケーヨー）

- 巻頭言　早坂 淳 理事
- 関複「令和２年度 第６回定例理事会」
- 関複事業「働き方改革推進支援事業」説明会
- page2021 リアル＆オンライン出展説明会
- 協賛会社３社の提案
- 連載　労働問題 働き方改革「中小企業の発展と人材」

関東複写センター協同組合

オンデマンドで、メタリックの世界へ。

業界初*、1パス6色プリントエンジンが、魅力的で訴求力に優れたメタリックカラーを、オンデマンドでスピーディーに実現します。ゴールド、シルバー、ホワイト、クリアーの特殊トナーから最大2色を選択し、CMYKトナーを組み合わせることで、多彩な印刷表現を実現。プリントビジネスの可能性をより鮮やかに広げます。

＊乾式電子写真方式。2017年10月現在。

イリデッセ プロダクション プレス
Iridesse™ Production Press

写真はオプション装着時

富士ゼロックス株式会社　www.fujixerox.co.jp
ご意見、ご相談などはお客様相談センターへ。0120-27-4100　受付時間 9:00〜12:00 / 13:00〜17:00（土・日・祝除く）
Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

FUJI Xerox

◆巻頭言63

新年度を迎えて

関東複写センター協同組合
理事　早坂　淳

当社は、10月から新年度が始まります。年度計画は毎年9月までに各部署からあがってきてきますが、1年間の計画方針を代表である私が各部署のマネージャーに伝えて、それを基に、次期1年間の計画が提出され、当社の次期年度計画ができます。

その計画通りに各部署が実行していきます。各月ごとの実績が年間を通し、1年間の結果になりますが、つらい時期を数年過ごしながらも先期まで10年計画を立てて、成果がでたのは社員の努力の結果であったことは間違いありませんでした。

しかし、過去の達成結果を分析すると、創立以来の営業開拓が成果の大半を占めていたので、実績を伸ばすやり方は変わっていませんでした。そのやり方を否定するわけではありませんが、顧客の営業スタイルや当社の受注スタイルも変わってきていることを素直に感じなければと思っています。

十数年先の経営を考えると時代は変わり、お客様の発注スタイルも変わってきているのですから。顧客の仕事の流れに我々も変わらなければ存続できないと考え、今期の経営方針のスタイルを立て直しました。

もちろん、通年の『今年は○○の仕事を取ってこよう!』『営業が受注した仕事を○○のやり方でやっていこう!』という、具体的に今までの『効率』や『経費』を考えた計画では1年の端的な計画で終わってしまいます。

企業を後10年、20年と継続するためには、今期の計画も立てなければいけないし、当たり前のことですが、今を考えると『社員の心構え』が必要で、それが、当社『ケーヨー』の看板であり、顧客に対するクオリティになると考えます。それを今から作らなければならないことに気が付きました。

そのためには、今年からスタートして直ぐにできる訳がないことも分かっていますので、今年10月から始まる1年間では不可能です。今年は、先ず足元から始めることにしました。

今年の計画書には、「代表者からの方針」として、従来の納期・価格・技術から受注の問合せに対して「できません!」と考えず、先ずは「考えてみます」と考えろ!今までのように問題を抱え一人で結論を出さず、自分の上司だけではなく、自分の部署全員で考える。

従来の会議は「取締役会議」「部課長会議」と会社経営の会議だったけれど、これに加え、今期は役職者だけでなく、部署を超えた営業部、現業部の会議を行い、営業が受注をして現業部は、それを熟し納品する受け身の形を変え、現業部も戦略的に営業へ提案していく方向に転換する方針とした。

関複

令和２年度 第６回定例理事会開く

今年度上期の収支報告、東京都中央会表彰受賞者報告

関東複写センター協同組合（関複、斎藤隆正理事長）は 10 月８日午後３時から、「令和２年度第６回定例理事会」を開催した。

新型コロナウイルス感染症対策のため、第５回に引き続きオンライン開催となった。これには理事、監事の８人が参加した。

はじめに、関複事務局からオンライン参加した斎藤隆正理事長は「久しぶりに事務局に来たが周りの環境が変わったことに驚いている。皆さんが変わらず元気で理事会に出席していただいていることに感謝している」と述べた。

Ⅰ【報告事項】

1）東京都中小企業団体中央会（東京都中央会）表彰について

・表彰受賞者の報告があり、表彰式の開催場所、出席者などの確認を行った。（詳細は本誌５頁に掲載）

2）上期収支報告

・収支報告のなかで、新型コロナ感染症の対応で、４～９月の組合員に対する賦課金免除、新春賀詞交歓会の中止などが説明された。

3）組合事業「働き方改革推進支援事業」説明会の開催時間、参加申し込み状況などが報告された。（詳細は本誌６頁に掲載）

Ⅱ【確認事項】各部会の活動について

▽ 総務部

・アンケート調査結果を組合員限定で「月刊関複 10 月号」に同封して発送。メールでも配信し、HP からの閲覧も可能にしたと報告があった。

・アンケートの項目、集計法や表記方法などを協議した。

▽ 事業推進部

・キヤノンコレモールの９月分の売上報告があった。また、今後のキヤノンコレモール制度について協議を行った。

▽ 広報企画部

・10 月２日午後１時からオンラインによる「月刊関複」編集会議を開催した。関複から細井武副理事長、米田和秀部長、早坂淳理事、協賛会員からは富士ゼロックス鈴木信彦氏、キヤノン MJ 吉田直矢氏が出席し、HP 掲載の月刊関複 10 月号を共有しながら意見、情報交換を行った。また、11 月号以降の巻頭言執筆者の確認、掲載内容についても話し合われた。

▽ 教育情報部

・新春トップセミナー開催にむけて準備を進めている。セミナー講師の方への質問募集のため月刊関複発送時にアンケート用紙を同封した。

Ⅲ【 ジャグラ活動について】

・2021 年のジャグラ大阪大会中止などが報告された。

Ⅳ【その他】

・亀田真司理事から退任のあいさつがあった。

・11 月 20 日付、黒井由美子事務局員の退職報告。

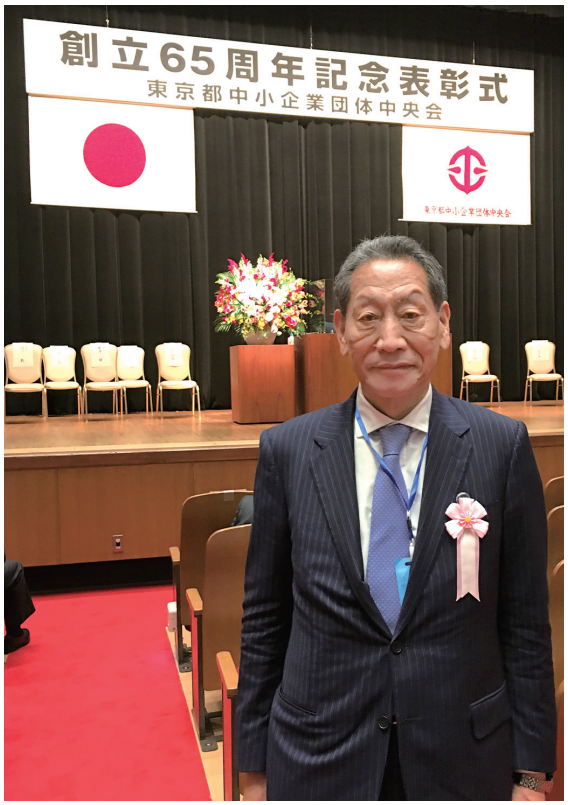
次回の理事会開催は 11 月 12 日（木）午後３時から Web で開催。

理事会の様子

東京都中小企業団体中央会が

「創立65周年記念表彰式」を開催

関複からは「都知事感謝状 団体役員」5名、「中央会会長表彰」2名が受賞



斎藤隆正理事長

東京都中小企業団体中央会は、10月16日午後1時半から「創立65周年記念表彰式」を中央区・銀座の銀座ブロッサムにおいて開催した。

関東複写センター協同組合（関複）からは斎藤隆正理事長、森迫隆正専務理事が出席した。「創立65周年記念表彰式」では例年行われる中央会会長表彰に加え、今年は5年に一度の都知事感謝状の表彰式もあった。

都知事感謝状団体役員は、組合の役員（理事または監事に限る）として通算15年以上在籍している者で、組合発展への貢献など優れた業績をあげた者に授与される。関複からは、斎藤隆正理事長、朝香雅文副理事長、細井武副理事長、森迫隆正専務理事、米田和秀理事の5名が受賞した。

また、中央会会長表彰の推薦条件は、組合に通算して10年以上理事または監事として就任し、原則として現在においても組合のリーダーとしの役割を果たしている者で、組合の育成強化に努めるとともに組合員の向上発展に寄与した功績が顕著に認められた

「都知事感謝状 団体役員」受賞者

朝香雅文副理事長

細井武副理事長

森迫隆正専務理事

米田和秀理事

「中央会会長表彰」受賞者

石毛健雄理事

柴田昌彦理事

者とされている。関複からは、石毛健雄理事と柴田昌彦理事が受賞となった。

祝辞を述べる小池東京都知事

今回、新型コロナウイルス感染防止に配慮した開催となり、出席は都知事感謝状の受賞者のみとされた。

第一部の記念講演は、ノースアジア大学、経済学部野口秀行教授より「コロナ社会での生き残りと成長戦略」と題した講演があった。

第二部では、表彰式に移り、東京都中央会の大村功作会長の挨拶の後、会長表彰式が行われた。次に小池百合子東京都知事より、都知事感謝状授賞式が行われた。

関複が
「働き方改革推進支援事業（団体コース）」説明会をWeb開催
東京都の代表的な助成金も紹介

関東複写センター協同組合（関複、斎藤隆正理事長）は10月15日午後1時半から、関複会議室において、組合事業「働き方改革推進支援事業（団体コース）」説明会を事業委託先のコンサルティング・オフィス神田幸男代表取締役に依頼し、開催した。

この事業は、今年度の東京都労働局で公示された「働き方改革推進支援助成金（団体推進コース）」となり、関複では7月より事業開始していた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、リアル説明会の開催が困難な状況にあったためWeb開催による運びとなった。

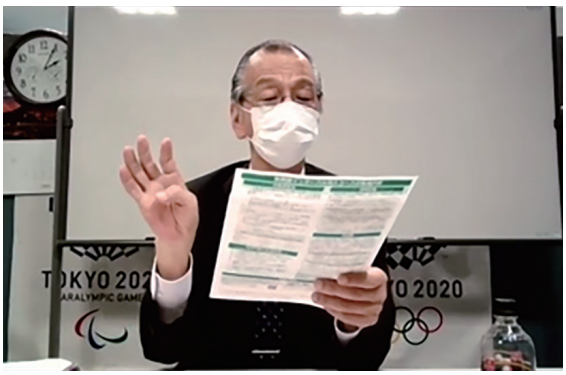
はじめに9月に実施された、組合企業の働き方改革に対するアンケート調査の結果について、組合員51社に対して26社の回答があったと報告され、組合企業の36協定締結状態などが紹介された。

神田氏は、このアンケート調査を基に、既にテレワーク実施等で働き方改革に取り組んでいる企業を訪問して好事例集で紹介することや、取り組み方がわからない企業への具体的なアドバイスをする巡回指導など、これら「実態調査」「訪問調査」「巡回指導」の実施スケジュールを公表した。

また「多くの組合企業へこの働き方改革支援事業を活用してもらいたい」と述べ、これを機に、就業規則や36協定の見直しを推奨するとともに、「この事業の実施で、来年度に各都道府県で公示される助成金申請に役立つ」と語った。

説明会の後半に東京都の助成金などの支援策も紹介もされ、参加者は代表的な助成金・補助金・奨励金の説明に高い関心を示した。

説明会を聴講した森迫隆正専務理事は「東京都では『働き方改革推進支援助成金』が幅広く色々なコースがあり、支給のための要件・手続きなどが簡素化され申請しやすくなっています。但し抽選の為、申請すれば必ず助成金を受け取る事にはなりませんが、手続きはコンサルティング・オフィスの神田様がお手伝いして頂けるので安心です。是非皆様、活用して頂ければと思います」と語った。


資料をもとに説明する神田幸男氏

JAGATが「page2021リアル&オンライン出展説明会」を開く

「リアル」と「オンライン」でハイブリッド化を実現
「ビジネス創出」と「相乗効果」でコロナ下のニュースタイル展示会をアピール

今回で34回目を迎える国内最大規模の印刷・メディアビジネスの総合イベント「page」は機材展にとどまらずデジタルメディア分野までを捉えた展示内容を展開しているが、新型コロナウイルス感染症の収束をみない今、来年2月に開催予定の「page 2021」はリアル展示会・リアルカンファレンス&セミナー（2021年2月3～5日、東京・池袋のサンシャインシティ・コンベンションセンター文化会館で）とオンライン展示会・オンラインカンファレンス&セミナー（配信2021年2月8～28日）のスタイルで開催することが決まった。

主催する日本印刷技術協会（JAGAT、塚田司郎会長）は9月24日、東京・杉並区和田の同本社で「page2021リアル&オンライン出展説明会」を開いた＝写真＝。JAGATの郡司秀明専務理事が「JAGATにおけるイベントの考え方について」、同藤井建人研究調査部長が「page2021ハイブリッドカンファレンスについて」、同塚本直樹CS部長が「同セミナーについて」、pageのオンライン化（web化）で協力してもらう日経イベント・プロの坪崎哲夫取締役が「page2021オンライン概要」、塚本直樹CS部長が「同オンライン出展メリット」、同CS部の堀雄亮氏が「リアル展示会・出展プランについて」などのテーマでそれぞれ説明した。

リアル展示会は、政府・自治体および展示会業界のガイドラインを基に新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて、出展者・来場者の安全を確保し、事前登録制で予定どおり開催する。このガイドラインの主な項目は、展示ホール入館の際、全員マスク着用の徹底や、サーモグラフィなどによる検温の実施。また全関係者に毎朝の体温、体調確認をし、37.5度以上の熱や体調不良のものは来場しないよう周知徹底するというもので、すでに9月に行われたリードエグジビションジャパン主催の「販促EXPO夏」など、いくつかの展示会ではこのガイドラインを踏まえリアルに開催されている。

また、リアル展示会に出展見送りの企業にはオンライン展示会出展をアピールし、ビジネス創出を図ることをすすめた。リアル展示会出展企業にもオンライン出展でリアルとの相乗効果が狙えると説明した。

今回のpage2021のイメージは、3密回避のリアル展示会と距離と時間を問わず参加できるオンライン展示会であり、しかもリアル開催セミナーをアーカイブ配信することで「pageのハイブリッド」化を実現できるとしている。

説明会では、今年度のJAGATイベントはいずれもコロナ対策のためリアルイベントからオンラインに変更して開催することを決めたことを明らかにした。

この10月2～15日に開催するトピック技術セミナー、10月30日～11月8日開催のJAGAT地方大会、11月30日～12月10日予定のJAGAT大会（近畿大会との統合）などのいずれのイベントもオンライン配信となった。

富士ゼロックスの提案 ㊿

幅広い用紙対応力で、印刷ビジネスの拡大に貢献する プロダクションプリンター「Versant 3100i Press / Versant 180i Press」を新発売

富士ゼロックス株式会社は、プロダクションカラー市場向けの新商品「Versant 3100i Press（バーサント3100アイプレス）」および「Versant 180i Press（バーサント180アイプレス）」を、10月30日に発売しました。

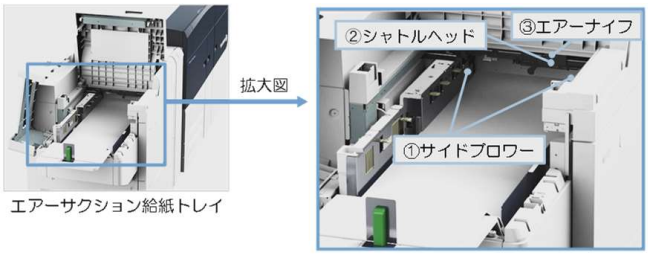
Versant 3100i Press

Versant 180i Press

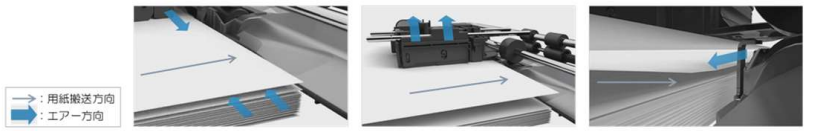
新商品の主な特徴

● **新開発「エアーサクション給紙トレイ」により用紙対応力を強化**

新開発の「エアーサクション給紙トレイ」は、3種類のエアーを組み合わせることにより安定した給紙を実現します。用紙厚さは、52g/m²の薄紙から400g/m²の厚紙注1まで対応。用紙サイズは、98x148mm（片面印刷）注2の小さな用紙から330x1200 mm（片面印刷）注3までの長尺用紙の印刷が可能です。



エアーサクション給紙トレイ



エアーサクション給紙トレイの給紙フロー

● **長尺印刷の生産性も向上**

長尺用紙は、従来からの手差しトレイに加えて、「エアーサクション給紙トレイ」からの連続プリントが可能になりました。これにより、1200mm（片面印刷）では100枚注4、864mm（両面印刷）では900枚注4の用紙積載を可能とし、高い生産性を実現します。またプリントスピードは、「Versant 3100i Press」で毎分23ページと従来機比約2.5倍注5に、「Versant 180i Press」で毎分19ページと従来機比約2倍注6に向上しました。

● **従来機の高い基本性能は継承**

「Versant 3100i Press」「Versant 180i Press」は、従来機より好評な高生産性、高画質、画質補正などの基本性能を継承しています。「Versant 3100i Press」は、毎分100ページ注7で2400dpiの高画質なプリントが可能。またインラインセンサーにより、カラーキャリブレーション、表裏レジ調整8などのプリント前の画質補正作業を自動化します。毎分80ページ注9で2400dpiの高画質なプリントが可能な「Versant 180i Press」は、専用チャートをスキャンすることで画質を自動補正する機能であるSIQA注10により、画質補正作業を効率化。これらによりオペレーションの負荷を軽減します。

注1： ～330x488mm走行時。330x1200mmまでの用紙は256g/m²までの用紙に対応
注2： Versant 180i Press（バーサント180アイプレス）は両面印刷も可能
注3： 両面では330x864mmまで対応
注4： 82g/m²、エアーサクション給紙トレイ C1-DSXLおよび重連用エアーサクション給紙トレイ C1-DSXLの長尺トレイ
注5： 300g/m²、～660mm走行時
注6： 220g/m²、～660mm走行時
注7： 52～300 g/m²、A4非コート紙走行時
注8： プリント画像の表裏位置ズレの補正
注9： 52～220 g/m²、A4非コート紙走行時
注10：Simple Image Quality Adjustment

リコージャパンの提案　㊿

RICOH
imagine. change.

リコージャパンは抗菌加工を施した名刺専用用紙の販売を開始しました。
名刺の役割は「自分を売る・サービスを紹介する販促ツール」として進化してきました。
現在ニーズのある抗菌用紙を活用して、サービスの幅を一緒に広げていきましょう。

このようなニーズはありますでしょうか！

- ✓ お客様にお渡しする名刺なので、**安全・安心**なものをお渡ししたい
- ✓ なかなか直接お会いできないので、**印象に残る**名刺をお渡ししたい
- ✓ 「安全面に配慮している会社」として**イメージアップ**をはかりたい

抗菌効果とは？
自然界にはあらゆる菌が存在しています。菌は物等に付着すると、成長（繁殖)を繰り返して増えていきます。この成長を抑える効果が抗菌効果です。

抗菌剤の成分は？
抗菌剤の成分は銀抗菌剤です。銀には抗菌効果があり、繊維・プラスチック・デオドラント製品・トイレの消臭剤などに広く使用されています。

※当社抗菌紙に使用している銀抗菌剤の素である銀イオンは、各種病原菌やウィルスの増殖を抑える働きがあります。
当社抗菌紙については、バクテリアに対して抗菌作用が認められておりますが、
新型コロナウィルスや他のウィルスに対する有効性については、現時点では確認できておりません。

RICOH Pro C9210/9200、C7210S/7200S、C5310S/5300Sで専用用紙の通紙検証が完了しております。
詳しい情報はリコージャパン担当営業までお問合せください。

高品質、高生産性と高度なセキュリティを実現する 広幅デジタルカラー複合機“ColorWave 3600 ／ 3800” を発売

建築・製造・印刷関連企業、官公庁、グラフィック市場では、複雑で高密度化された図面などを制作する業務が増えており、より精度の高いコミュニケーションが可能なカラー印刷の需要が拡大しています。また、昨今の機密情報漏洩リスクに対する意識の高まりを受け、セキュアなプリント環境が求められています。こうしたニーズに応えるため、この度、高品質なプリントを実現しながら高生産性と高度なセキュリティを兼ね備えた、広幅デジタルカラー複合機の新製品“ColorWave 3600 ／ 3800” を発売します。

ColorWave 3800

■ 高品質なプリントを実現するキヤノン独自のテクノロジー

キヤノン独自開発の印刷技術「クリスタルポイントテクノロジー」を搭載し、正確で鮮明な描写を実現します。インク受理層が不要で印刷の際に用紙による影響を受けない為、普通紙でも線画からグラフィックまで高品質な出力が可能です。

■ プロセス全体の効率を追求した高生産性を可能にするプリントシステム

A1サイズのモノクロで分速3.7枚、カラーで分速3.5枚の印刷スピードを持ち、プリント、コピー、スキャンの別々な業務をマルチタスク処理で行うことにより、作業時間の削減を実現します。加えて、印刷後乾燥時間が不要で、プリント完了までの時間短縮を可能にします。また、マルチタッチパネル「クリアコネクト」の搭載により、スマートフォンのような直感的な操作性で、印刷設定やプレビュー確認・修正を容易に行えます。モノクロとカラー出力を1台に統合しワークフローの効率化を図ることにより、プリント指示から給紙、スタックまで、プロセス全体の高生産性を実現します。

■ 情報漏洩リスクを低減する高度なセキュリティ

統合印刷セキュリティ「スマートシールド」を新たに搭載しました。社外からの不正アクセスを防ぎ、プリントワークフローにおけるセキュリティをより強固にします。さらに、ICカードによる個人認証システムでアクセスを制限することにより、故意または過失による機密性の高い印刷物やデータの漏洩を防ぎます。

富士ゼロックスが
国内営業部門と全販売会社を統合「富士フイルムビジネスイノベーションジャパン」を設立
全国統一オペレーションでユーザーへの新たな価値提供を加速

富士ゼロックスは、2021年4月1日付で、同社の国内営業部門と国内の全販売会社31社、ならびに富士ゼロックスインターフィールドを統合し、新会社「富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社」を設立する。

「富士フイルムビジネスイノベーションジャパン」は、2021年4月1日より同社が社名を変更する「富士フイルムビジネスイノベーション」の国内営業を担う。

■新会社設立の狙い

●ユーザーの新たなコミュニケーション・働き方をリードする価値提供の加速＝①進化するデジタル技術と長年培ったドキュメントに関する知見を生かし、デジタルトランスフォーメーション（DX）を通じて、ユーザーのコミュニケーション課題の解決を支援する。②高度なセキュリティーや最適なテレワーク環境を実現する高付加価値なソリューションサービスをワンストップで提供。

●全国統一オペレーションでユーザーへの価値提供を加速＝全国のユーザーに向けて、新たな価値をスピーディーに提供するとともに、地域に根差した営業活動も継続。

■新会社の概要

会社名：富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社

発足日：2021年4月1日

「富士フイルムビジネスイノベーションジャパン」は、企業を取り巻く環境が急速に変化するなか、デジタル化の加速とともに進化するビジネス形態や多様な働き方に柔軟に対応し、ユーザー及び社会全体の課題解決に貢献していくとしている。

富士ゼロックスが　米国セキュリティー基準「NIST SP800-171」への準拠性を示す情報セキュリティー格付けで最高評価「AAAis」を日本で初めて取得

富士ゼロックスは、情報セキュリティー格付会社である、アイ・エス・レーティング（本社：東京都中央区、三好 眞 社長）の米国セキュリティー基準「NIST SP800-171」への準拠性を示す情報セキュリティー格付けで、同社デジタルカラー複合機・プリンタ「Apeos Port」シリーズが日本初の「AAAis（トリプルA）」を取得したと発表した。

「NIST SP800-171」とは、米国の国立標準技術研究所（National Institute of Standards and Technology）が定めた、セキュリティー基準を示すガイドライン。同基準に準拠するためには、110項目の高水準なセキュリティー要求を満足する必要がある。米国の国防総省は、取引企業に対して「NIST SP800-171」対応の義務化を進めており、日本でも防衛産業の調達基準において、セキュリティーに対する要求水準が高まっている。

今後、防衛産業はもとより、グローバルにビジネスを展開する企業において「NIST SP800-171」への対応が広く求められる可能性がある。

リコージャパンが
ニューノーマルに対応した「RICOHコンテンツ活用&業務効率化サービス」を提供開始
～クラウド型 CSP「DocuWare」を軸に、企業のドキュメント管理やワークフローを効率化～

リコージャパンは、ニューノーマル（新常態）環境下での業務効率化や生産性向上を実現するソリューション商品群「RICOH Digital Processing Service」の新サービスとして、国内中堅企業向けにドキュメント管理やワークフローを効率化する「RICOH コンテンツ活用&業務効率化サービス」の提供を開始した。

昨今、ニューノーマルに対応した働き方の見直しを行う企業が増え、はたらく場所を問わず、自動化・省力化により業務の生産性を向上させることが課題になっている。しかし、企業内外との情報伝達、共有では、デジタル化の遅れにより、中堅中小企業を中心に、現在も紙文書でのやりとりが多く発生しており、業務プロセス効率化の障壁となっている。

「RICOH コンテンツ活用&業務効率化サービス」は、リコーのグループ会社の独ドキュウェア社（DocuWare GmbH）が開発するクラウド型の CSP(Contents Service Platform）である「DocuWare」をコアに、ユーザーの課題を解決するためのソリューション。

「DocuWare」は、OCR による紙文書のデジタル化からコンテンツ管理に加え、ワークフロー自動化、外部システムとの連携を実現。複合機によるスキャンデータや受信 FAX、メール文書、添付ファイル、WEB フォームなど、様々な形式の情報に対して自動的に全文 OCR 処理を実施し、AI（人工知能）により、ドキュメントの種類やコンテンツ内容および配置を学習。インデックス情報を自動抽出することで、すばやい検索や業務システム連携用データとして活用できる。各種情報のデジタル化・インデックス化によるコンテンツ管理に加え、CSV/API を活用してインデックス情報を外部システムとシームレスに連携できる。

また、申請書や請求書など、社内の承認が必要なワークフローも、予め定義された承認フローに従い、自動化することができる。洗練されたユーザーインターフェース（UI）により、画面上で文書のデジタル化から承認ワークフローまでを直感的に操作でき、出張時やリモートワークでも、パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのデバイスから各種の作業を実行できる。

「RICOH コンテンツ活用&業務効率化サービス」では、DocuWare をコア・アプリケーションとし、業種業務ごとのユーザーの環境に合わせ、固有のプロセスに対応したモデルを提供。帳票処理自動化、注文書ファクス処理の効率化、契約書管理効率化、ワークフロー文書管理など4つの業務モデル、また、業種向けモデルとして製造現場かんたん文書管理モデルを用意し、順次モデルバリエーションを拡大するとしている。

「RICOH コンテンツ活用&業務効率化サービス」の概要図

キヤノンMJとキヤノンITSが

世界基準の運営品質を提供する西東京データセンター「2号棟」を竣工

キヤノンマーケティングジャパン（キヤノンMJ）とキヤノンITソリューションズ（キヤノンITS）は、「西東京データセンター2号棟（以下2号棟）」を2020年10月30日竣工した。

クラウドやIoT、AIなどの技術革新を背景としたデジタルトランスフォーメーションの進展は、あらゆる産業界のビジネス変革を加速している。これに伴い、コンピューティング環境は社会インフラとしての重要性が高まるとともに、その需要は急速に拡大している。こうした背景のなか、データセンターに対しては、建物や設備、セキュリティ、運営品質などの各要素で、従来以上に高度な水準が求められている。

安定した地盤に立地する西東京センター2号棟はこうしたニーズに応えるもので、2880ラックの設置が可能なスペースと25MVAの受電容量に加え、高性能なファシリティと厳重なセキュリティを備えている。また、長年のデータセンター運営で蓄積した知見・ノウハウをもとに、「M&O認証」を取得しており、第三者機関が証明するグローバル基準の運営品質を提供。これに加え、入退室認証システムにキヤノンの顔認識技術を採用し、認証にかかる時間を短縮するとともに、センターの安全性を防疫面からも高めることで、安心安全に使えるとしている。

西東京データセンターを中心とするITインフラサービス事業では、クラウドサービス「SOLTAGE」、外部クラウドサービスと組み合わせたハイブリッドクラウド環境など、ユーザーに最適なインフラ基盤を提供している。キヤノンMJグループのサービスで培ってきた、システム開発やセキュリティ運用、システム運用などの経験・ノウハウを生かして提供されるアウトソーシングサービスで、ユーザーのクラウドシフトを全方位で支援していくとしている。

西東京データセンターが支えるキヤノンMJグループのSaaSサービスはキヤノングループが保有する自然言語処理技術や画像処理技術に、AIの技術を組み合わせることで、コールセンター応対内容やSNSといった顧客の声からのトレンド分析、農作物の収穫量予測といったソリューションを提供している。また、これら各種サービスや様々なデバイスからデータセンターに集まる膨大なデータを蓄積、分析、予測し得られる情報を活用することで、新たなサービスや顧客価値の創造を目指すとしている。

西東京データセンター2号棟

概要

名称	西東京データセンター　2号棟
場所	東京都西東京市
延べ面積	17,107㎡
階数	地下2階～地上3階
建物高さ	28.10m（軒高）
ラック数	最大2,880ラック
構造	鉄骨造
受電容量	25MVA

テレワークについて

未来予測研究所
代表　藤田　友久

今回は、テレワークについて述べます。テレワークという言葉はほとんどの方がご存じだと思いますが、テレワークとは「勤労形態の一種で、ICT（情報通信技術）を活用し時間や場所の制約を受けずに柔軟に働く形態」（ウイキペディア）のことです。つまりオンライン勤務です。

日本ではいったいどの位普及しているのでしょうか。大企業ではかなり普及しているようですが、中小企業ではまだまだと感じています。テレワークになっているのは一部だけで、ほとんどの部門はそうではありません。まして複写業界では、出勤しなければできない現場中心の仕事が多く存在します。しかし今のコロナ禍が続くならば、業務の在り方を再検討しなければならない可能性は十分あると思います。具体的にお話しするのは難しいですが、やはり業務におけるオンライン化を優先して検討するべきでしょう。それには社長が率先してテレワークを実行し、その可能性を探るというのも良いかもしれません。

今、教育分野では、小中学校は多くの制約を設けながらもとりあえずは対面授業が行われていると報道されていますが、大学ではどうでしょうか。知人の駒沢女子大学の小林憲夫教授によると、後期も前期と同様すべてオンライン授業になるようです。確かに授業によって大学に登校したりしなかったりでは不便ですから、中途半端な対面化はできません。活動範囲が広く、教室に限らず集団で行動することが多い学生が、様々な地域からいろいろな交通機関を使って登校する大学の感染リスクを考えると、全面オンライン化はやむを得ないのかもしれません。しかし、今年入学した学生さんなどは入学式もなく、一度も大学に来られず、サークル活動もできない状態が続いているわけで、少しかわいそうな気がします。

小林教授の話だと、オンライン授業にはメリットもあるようです。それは授業での出席率の増加で、これまでは10％近くあった欠席者が1/3に減り、皆勤の学生が圧倒的に増えたそうです。これは会社にも当てはまることかもしれません。テレワークでは、スマホやノートPCを持っていればどこからでも会社の会議やミーティングに参加ができます。会社に通勤しないため遅刻者がいなくなり、企業にとっては時間厳守が徹底されることになります。私はさらに通勤時間の削減には、交通費というコスト的メリットの他に、生活様式において大きな意味があると思います。それは労働時間に含まれないためこれまであまり考慮されてこなかった「通勤時間ロス」という視点です。仕事時間と生活時間の切り替えが早くできることで、いわゆるワーク・ライフ・バランスの向上につながるはずです。

大学では在宅時間が増えたため勉強を熱心にする学生が増えたと、小林教授はおっしゃっていました。テレワークで生産性アップが実現できればすばらしいことです。しかしそのためには各種のオンライン機器を使いこなせなければなりません。私たちはまずICTリテラシーを鍛える必要があるのです。皆様の更なるご健闘を心よりお祈りいたします。

労働問題　働き方改革
中小企業の発展と人材（1）

株式会社コンサルティング・オフィス

代表取締役　神田幸男
（中小企業診断士）

中小企業の発展と人材

中小企業が環境変化に対応して発展するためには、情報力、技術力、マーケティング力等を充実しなければなりませんが、これらの経営資源の支柱となるのが人材です。近年、人々の就業意欲が大きく変化している中で、大企業に比べて労働条件や企業イメージの面で差がある中小企業では、人材確保、人材養成の面で一層の努力が必要になっています。

必要な人材を確保するためには、地方の労働力、女性、高齢者等の能力を貴重な資源として活用することが重要であり、これらの活用を円滑に行い得るような設備や制度の面の工夫がなされる必要があります。また、内部で環境変化に適応し得る高度な能力を有する人材を育成するためにOJT（職場内訓練）だけでなく、外部機関の利用（職場外訓練＝off－JT）が有効です。

さらに、中小企業が優秀な人材を確保すると同時に、勤労意欲を高めて生産性を向上させるためには、労働時間短縮の推進、職場環境の整備、企業イメージづくり、個人の能力を重視した企業組織の構築等により、魅力ある職場づくりを実現することが重要です。

労働者の自己実現の場としての職場を提供することは、人材を確保して中小企業の存立基盤を維持することにつながるとともに、国民全体のゆとりと豊かさに資する社会的意義も大きくなります。

1．中小企業における人材の重要性

市場の高度化や経済のボーダレス化への対応を迫られている中小企業がビジネスチャンスを掴むためには、情報力、技術力等の経営資源が重要な意味を持ちますが、これらの経営資源の根底にあるのが人材です。進展する技術革新の中で市場の要求に応え得る技術力を有するには、高度な能力を有する技術者が必要であり、情報力の強化のためにはコンピュータ等情報機器に関する知識を有する人材や情報を企画開発に活用する能力を持つ人材が不可欠です。また、経済のボーダレス化に対応するためには海外の経済事情等の知識が、市場指向型の企業活動を図るためにはマーケティングの能力が必要です。

2．中小企業の人材の確保策

中小企業が必要な人材を確保するためには、採用の面で幅広い層からの有用な人材の確保を図る方策と、企業内において従業員の能力を高める方策の２つの方向があります。

（1）採用面での対策

① 幅広い層からの採用努力

採用活動の方法をみると、中小企業では大企業と比較して、新聞・雑誌への広告、民間就職情報誌の利用、自社によるパンフレットの作成、就職説明会の利用度が低く、経営の中核となる優秀な従業員を雇用するためには縁故に頼る傾向が強くなっています。このため、中小企業は大企業に比べ採用の対象の幅が狭められており、今後においては更に多様な手段を用いた採用努力が求められます。

労働需給は地方圏の方がタイトでなく、必要な労働力を比較的得やすい傾向にあります。この点に着目して地方圏での採用を積極的に行ったり、さらには、事業活動を地方に移転させる動きが近年活発になっています。製造業に対するアンケートによると、生産拠点の移転を大企業でも41.6％の企業が行った、または検討していると回答しています。

複写を考える⑦⓪（複写業を中心とする　複写の歴史）

細井　大建

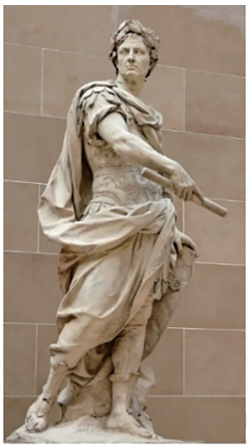
クレオパトラの目論見は・・・

エジプトのファラオは、クレオパトラともう一人の弟プトレマイオス 14 世と共同統治を再開したが、この政権はカエサルの後ろ盾を得て成立しているので、実際にはクレオパトラが単独で統治、カエサルの傀儡政権ともいえる。

紀元前 47 年にはクレオパトラはカエサルの子、カエサリオンを産んでいる。

紀元前 46 年、ローマの元老院によってカエサルは 10 年間の期限で独裁官に任命され凱旋式を挙行した頃、クレオパトラはカエサリオンを連れてローマを訪れて、カエサルの庇護のもとローマに滞在していた。

クレオパトラの思惑としては、カエサルには先妻も正妻もいたが、嫡子のいないカエサルの後継者にカエサリオンを、とひそかに望んでいたと思われる。



カエサル立像 Fig137
ルーブル美術館所蔵

紀元前 44 年にカエサルは終身独裁官となるが、これはローマが共和政から帝政に変貌することになるので反対者も多く、共和政維持の立場をとる元老院勢力のブルートゥスらによって元老院議場で暗殺された。

カエサルは自分の後継者に、カエサリオンではなしに自分の妹の孫にあたるオクタヴィアヌスを指名していた。

後ろ盾をなくしたクレオパトラはエジプトに帰国、プトレマイオス 14 世もローマから帰還後、14 才で死亡（暗殺説もある）。

クレオパトラは 3 才の自分の息子カエサリオンを急遽王位につけ、成人になるまで共同統治者としエジプトを治めることとした。

そのころローマでは、カエサルの仇を討ち共和政の再建を図るという名目で、カエサルの相続人と称するオクタヴィアヌスとアントニウスおよびレピドゥスの 3 人で国家再建三人委員に就任し、ローマを支配した。三頭政治を敷くこととなったが・・・

「カエサルの死」（ヴィンチェンツォ・カムッチーニ）Fig138

これら 3 人に対立して、（リベラトレス側）としてカエサルを暗殺したブルートゥスやカッシウスが対立、内戦状態になっていた。

エジプトは両陣営から声がかかる。世間ではクレオパトラはカエサル派を応援するものと思われていたが旗幟を鮮明にしなかったが、裏切りなどもあり結果的に（リベラトレス側）カッシウスに附くことになってしまった。

『月刊関複』表紙掲載写真ご提供のお願い

月刊『関複』では毎月、表紙の掲載写真を理事の皆様の協力で投稿頂いております。今後は会員同士のコミュニケーションも含め多くの会員皆様からの投稿をお願いしたいと思います。

題　　材：フリー
撮影機材：一眼レフ～スマホ全て可能
※タイトル又は簡単な説明を 30 文字程度付けて下さい
送 付 先：メールにて以下へ送付して下さい
kjun@keyo.co.jp
※写真は横長タイプを推奨します

■今月号の掲載写真

津軽の眺望
早坂 淳氏（株式会社ケーヨー）

10 月号：高村利男氏
浦安の朝日

9 月号：早坂 淳氏
島根県出雲市の旧大社駅

8 月号：早坂 淳氏
東京上空を飛ぶブルーインパルス

関複会員情報

【組合員】
〈脱退〉R2.10.31
▽チヨダクレス㈱
代表取締役　亀田 真司

〈事務所移転〉R2.11.1 より
▽㈱日本工業社
東京都文京区白山2-37-7
TEL. 03-6681-0916
（敬称略）

関東複写センター協同組合月刊誌

月刊関複　第 68 号

令和 2 年 11 月 1 日発行

購読料／年間購読 6,000 円（消費税・送料込む）
1 部 500 円（税込み・送料別）

編集発行人：**関東複写センター協同組合**
広報企画部 月刊関複編集委員会

発　行　所：**関東複写センター協同組合**
住　所　〒112-0002
文京区小石川 1-4-12
文京ガーデン ザ ウエスト 704号室
ＴＥＬ　03-3815-4338
ＦＡＸ　03-3815-4357
Ｅメール　info@kfcc.or.jp
ＵＲＬ　http://www.kfcc.or.jp

印　刷　所：**株式会社ケーヨー**

KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

真のプロダクション印刷システム

- 高品質で多彩な印刷物の提供
- 高水準の画像品質を安定供給
- マシンの生産稼働率向上
- スキルレスオペレーション
- 合理的な出力環境の構築
- 印刷物の付加価値向上に寄与

新開発のインテリジェントクオリティオプティマイザー

印刷生産機としての実稼働率の向上、より高い品質の印刷物をより確実に、安定して供給。そしてそれらをスキルレスでのオペレーションで実現する。プロダクション印刷システムの基本性能向上に拘った真の生産機、それが、AccurioPress C6100シリーズです。

AccurioPress C6100/C6085

- 色管理・表裏見当調整を自動化
- 用紙厚によらず毎分100枚※1の高速出力
- 受注幅を拡大する400g/㎡の厚紙対応力
- 独自技術を駆使した高画質と色安定性
- サービスの多様化を推進するフィニッシャー群

※1：C6100にて、A4ヨコ・52～400g/㎡紙時

＊写真はC6100にオプションを装着したものです。

コニカミノルタ ジャパン株式会社 〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1

●商品に関するお問い合わせは 0120-805039 受付時間／9:00～12:00・13:00～17:00（土、日、祝日を除く）

http://www.konicaminolta.jp

可能性を
カタチにする。

RICOH
imagine. change.

デジタルプリントビジネスの最前線において求められる高い生産性と品質、そして競争力。
スキルレスオペレーションで生産性と品質を両立する新技術「IQCT*」と、
最大５色のスペシャルカラーによる多彩な表現力でビジネスチャンスを拡大します。
新たな「可能性」を拓く最新鋭モデル、RICOH Pro C7200S シリーズの登場です。

RICOH Pro C7210s/C7200s

www.ricoh.co.jp/pp/pod/

＊ Inline Quality Control Technology ※写真はRICOH Pro C7210S にオプションを装着したものです。

プロ、体感。

RICOH Printing Innovation Center ショールームスペース　お問い合わせ：050-3534-2121
RICOH Pro をはじめ、プロダクション プリンティング ビジネスの新たなソリューションをご覧いただけます。また DTP セミナーも定期的に開催中。

※ご利用は予約制となっております。詳細につきましては、担当営業または販売会社までお問い合わせください。

この広告は、リコーが提供する新しいクラウドサービスである RICOH Clickable Paper サービス*に対応しています。

＊ iPhone/iPad/Android™ アプリケーション『RICOH CP Clicker』(無料)をダウンロードし、広告を撮影（クリック）すると、商品のスペシャルサイトなどインターネット上の関連情報をご覧いただけます。

株式会社リコー　〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6
リコージャパン株式会社 〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2

※iPhone、iPadはApple Inc.の商標です。※iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。※AndroidはGoogle Inc.の商標です。

Canon

オンデマンドプリンターは新たなステージへ。

高画質と高生産性の両立。
優れた安定性と多彩なメディア対応力。
多様化するニーズに柔軟に対応し、
ビジネスに競争力をもたらします。

imagePRESS C910/C810

◎オンデマンドプリンター ホームページ
canon.jp/pod-printer

◎キヤノンお客様相談センター
プロダクション向け複合機
050-555-90053
受付時間 平日9:00～17:00
（土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます。）

※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9626をご利用ください。※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

カタログは、canon.jp/catalogからダウンロードしていただくか、ハガキの場合は、住所、氏名、電話番号を明記の上、〒261-8711 千葉県千葉市美浜区中瀬1-7-2 キヤノンマーケティングジャパン（株）カタログ請求「imagePRESS」係までお送りください。※カタログ請求を通じてお客様より任意でご提供いただいた個人情報は、カタログ送付の目的のみに使用いたします。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社